

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本発生生物学学会
演題名	Sex determination depending on X-chromosome dosage in primordial germ cells of <i>Drosophila</i>
発表者	<p>○<u>太田龍馬</u>¹、※Fazratul Hasanah Binti Muzayyan¹、森田俊平²、林誠³、小林悟³</p> <p>1: 帝京大学 理工学部 バイオサイエンス学科 2: 東北大学 浅虫海洋生物学教育研究センター 3: 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター (アンダーラインは本学教員、○は発表者、※は本学大学院生)</p>
内容	<p>当研究室では、ショウジョウバエ始原生殖細胞（生殖細胞のもとになる細胞）の性決定のしくみについて研究しています。本学会ではショウジョウバエ始原生殖細胞では、1) XX型（メス）とXY型（オス）でX染色体上の遺伝子の発現を等しくする遺伝子量補償がないこと、2)そのためXX型（メス）とXY型（オス）でX染色体上の遺伝子の発現に差があること、3)XY型（オス）でX染色体上の遺伝子の発現を上昇させるとメス化することを示唆する結果、について報告を行いました。以上の結果は、始原生殖細胞の性が、遺伝子量補償がないことに起因する、X染色体上の遺伝子の発現差によって生み出されることを示唆しています。</p> <p>本研究は、科学研究費補助金(18K14739および20H03287と、24247011, 25114002および18H05552の一部)および筑波大学TARAプロジェクト（2020212および202106）の支援を受けて行ったものであり、筑波大学との共同研究により行われました。</p>